

ズバリ!聞きます

一般質問

学校給食に和水町の特産品である
イチゴ・みかん・茄子についても
100%町内産で賄って頂きたい!

[町長] 極力努力する。



蒲池 恭一議員

問 学校給食において和水町の農産物をどれだけ利用されているか伺う。

答 (学校教育課長) 学校給食に使用している農産物は約50種類程度あり、米、豚肉、スイカ、ぶどう、梨、オクラ、ニガウリ、アスパラガスについては、すべて町内産で賄っている。

問 和水町の特産品であるイチゴ、みかん、茄子についても100%町内産で賄って頂きたいと思うが伺う。

答 (学校教育課長) 農産物の購入の際には「町内産をお願いします」と言うことで申し伝えているが、イチゴ、みかん、茄子そういった特産品も、極力頑張つて賄っていききたい。

問 地域の活力こそがまちの活性化につながると思うが、これまでの取り組みと今後の取り組みについて伺う。

答 (企画課長) 地域の活力が町の活性化につながるものと理解しており、町では、「希望(ゆめ)あふれ、人と地域が輝くまち」を町の将来像として町づくりを進めている。

これまでの取り組みとして、地域づくり活動支援補助金として、地域づくり団体等の活動に対して、補助金の交付をしている。

今年度は補助金の要綱等の見直しをして、取組内容によって補助率を100%とし、補助金の上限額も30万円としたところで、6件の申請を受け付け、99万2,000円の補助交付金の認定を行ったところである。

今後の取り組みとしては、今後も地域の活力による活性化につながる取り組みに対して、支援が充実するように検討を重ねる。

現在、地域おこし協力隊を受け入れて地域活動を行っており、今年度は3人の隊員を受け入れ、地域にある空き家を借り、その住居に入居して、地域に根ざした活動を行っている。

今年度取り組んでいる「田舎暮らしのすすめ事業」に関する空き家調査では、行政区の区長さん方を訪問し、集落の特徴について聞き取り調査を行ったり、各地域づくり団体への活動にも積極的に参加しており、こうした活動は、3人の方々が住んでいるそれぞれの地域を拠点として、関係する地域住民の方々も、若い隊員の参加に元気が出て、積極的な活動が行われている様になっている。

協力隊を中心に地域おこしの新たな基盤づくりについての検討が始まり、今後の活動に期待している。

問 里づくり協議会(9団体)、地域おこし協力隊の横の連携をして頂きたいと思うが伺う。

答 (企画課長) 連携することでも大変重要だと思うので、調整会議をやりながら進めていく。

その他の一般質問は、次の通り。

◎学校給食調理場の空調設備について

◎定住促進について

